

怖い絵、
変な絵、
かわいい絵
ぜんぶ、
ほとけの国だから生まれた美



春の江戸絵画まつり



2024
3.9—5.6 [土] [月休]

前期：3月9日[土]—4月7日[日] 後期：4月9日[火]—5月6日[月休]
作品の大幅な展示替えを行います。詳しくは当館ホームページをご覧ください。

2度目は半額！ 観覧券をお求めいただくと、2度目は半額になる割引券が付いています(本展1回限り有効)。

休館日：月曜日(4月29日・5月6日は開館)
開館時間：午前10時—午後5時(入場は4時30分まで)
観覧料：一般700円(560円)、高校生・大学生350円(280円)、小学生・中学生150円(120円)

* ()内は20名以上の団体料金。*未就学児無料。*障害者手帳等(ミライロID可)をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。*常設展もご覧いただけます。*府中市内の小中学生は「府中っ子学びのパスポート」で無料。主催：府中市美術館 *本展の他会場への巡回はありません。

府中市美術館 Fuchu Art Museum



ほとけの国
美術
Art in the Land of Buddha



長沢蘆雪 枯木狗子図(後期展示)



森狙仙 猿図(後期展示)



柴田義董 動物図押絵貼屏風 楠水軒記念文化振興財団(前期・後期展示)



八相仏涅槃図 名古屋市・西来寺(後期展示)

涅槃図と動物絵画の時代
現代人の心をつかむ応挙や蘆雪の子犬の絵。一見、仏教とは無関係に見えるこの創作も、実は、仏教なしには生まれなかったでしょう。「動物にも人と同じ心がある」という、古くから日本人々を包み込んできた仏の教えが、動物の命を思いやり、絵の中の動物を愛おしむ、そんな文化を生み出したに違いありません。

新発見 蘆雪の子犬いっぱい屏風



長沢蘆雪 子犬図屏風(前期・後期展示)

子犬の絵の名手として応挙と並ぶ人気を得た、長沢蘆雪。蘆雪の子犬の絵は、ほとんどが掛軸ですが、大きな屏風に描かれた作品が発見されました。師の応挙が描く子犬が賢そうな雰囲気、を漂わせているのに対して、蘆雪の子犬は、ゆるくて、ひたすらやんちゃです。そんな蘆雪犬の魅力が詰まった作品が、本展で初公開されます。

表紙(右上から右回り)：葛飾北斎 布袋図(後期展示)／地獄極楽図 金沢市・照円寺蔵(後期展示)／土佐行広 二十五菩薩来迎図 京都市・二尊院蔵(前期・後期展示)／伊藤若冲 白象図(後期展示)／長沢蘆雪 藤花圖(前期展示)／長沢蘆雪 春景群鳥図(前期展示)／長沢蘆雪 子犬図屏風(前期・後期展示)

〈関連イベント〉

展覧会講座「ほとけの国の美術 来迎図から子犬の絵まで」金子信久(当館学芸員)
4月27日(土) 午後2時より(90分程度) 府中市生涯学習センター講堂(府中市美術館より徒歩5分) 予約不要 無料

子ども向けイベント「ほとけの国の探検隊！」会期中随時 展覧会を見ながら「探検隊ワークシート」のクイズに挑戦。観覧料が必要ですが、府中市内の小中学生は、「府中っ子学びのパスポート」で入場できます。年齢制限はありませんので、大人の方の参加もお待ちしております。

〈交通案内〉

- 京王線府中駅北口から
 - ・徒歩17分
 - ・ちゅうバス府中駅行き「府中市美術館」①下車すぐ(8時5分から毎時30分間隔で運行、100円)
- 京王線府中駅からバス
 - ・ちゅうバス多磨町行き「府中市美術館」①下車すぐ(8時から毎時30分間隔で運行、100円)
 - ・武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)「天神町二丁目」②下車すぐ
 - ・武蔵小金井駅南口行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」③下車徒歩8分
 - ・国分寺駅南口行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」④下車徒歩8分
- JR中央線武蔵小金井駅南口からバス
 - ・府中駅行き(一本木経由)「一本木」⑤下車すぐ
 - ・府中駅行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」⑥下車徒歩8分
- JR中央線国分寺駅南口からバス
 - ・府中駅行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」⑦下車徒歩8分
- お車の場合は、美術館近くの府中市臨時駐車場(無料、54台収容)をご利用ください。



府中市美術館 Fuchu Art Museum
東京都府中市浅間町1-3
ハローダイヤル 050(5541)8600
https://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/

ほとけの世界を描く めくるめく 創意と工夫

「ほとけの国の美術」という言葉から、皆さんなら、どんな美術を思い浮かべますか？ 天平時代の優美な仏像、平安時代の洗練された仏画、あるいは鎌倉時代に運慶が作った端正で力強い仏像でしょうか？ もちろん、どれも素晴らしい「仏教美術」です。しかし、この展覧会でご覧いただく「ほとけの国の美術」は、それらとはちよつと違います。

例えば、江戸時代の画家、伊藤若冲が描いたユニークな白象の絵も、円山応挙や長沢蘆雪の無邪気でかわい子犬も、仏教がなければ生まれなかった美術なのです。江戸時代の絵画というと、現代ではそれぞれの画家の「個性」に目が向けられがちですが、当時の画家や絵を見る人たちの多くは、仏教と密接な暮らしをしていました。今回の展覧会では、画家たちの制作の根底にあった「仏教」をキーワードに、現代人の心を魅了する様々な作品を見渡します。展示作品の中心は江戸時代の絵画ですが、昨年修理を終えたばかりの室町時代の仏画の大作、京都市・二尊院の《二十五菩薩来迎図》全一七幅のほか、近世以前の仏教美術の優品も展示します。来迎図から若冲、そして応挙や蘆雪の子犬まで、「ほとけの国」で生まれた、美しく、アイディアに溢れた作品をお楽しみください。



個性の時代に輝く 「古典」の美

平安・鎌倉時代に花開いた仏画。その完成された造形美は、この時代にも輝きを失うことのない「古典」として生き続けました。様々なスタイルの絵画が登場した江戸時代だからこそ、仏画の美しさに真摯に向き合う画家たちも大勢いました。古に学ぶことから生まれた、江戸時代の優れた仏画を紹介します。



鈴木其一 茶祝尼天像（前期展示）



冷泉為恭 五髻文殊菩薩像（後期展示）

「上手」「下手」ってなに？



仙厓義梵 竹虎図（後期展示）

江戸時代は禅宗が最も普及した時代で、その教えを伝えるための「禅画」も数多く描かれました。変な絵、かわいい絵、不気味な絵……。「常識を超えよ」と説く禅のスピリットを、おかしく、そして鋭く伝える作品の数々を見てみましょう。

人気キャラも「ほとけの国」から

観音さまに羅漢さん、寒山拾得、布袋さま、江戸時代には、真面目な信仰の対象であるはずの仏や人物が、いわばおかしなキャラクターにもなりました。「いかに変わっているか」を競う寒山拾得の絵や、絵の中で色々なことをさせられて遊ばれる「布袋」など、多彩で楽しい作品が、それぞれの仏や人物に備わる徳やその逸話から生まれています。



曾我蕭白 雪山童子図 松阪市・継松寺（後期展示）



春叢紹珠 皿回し布袋図（後期展示）



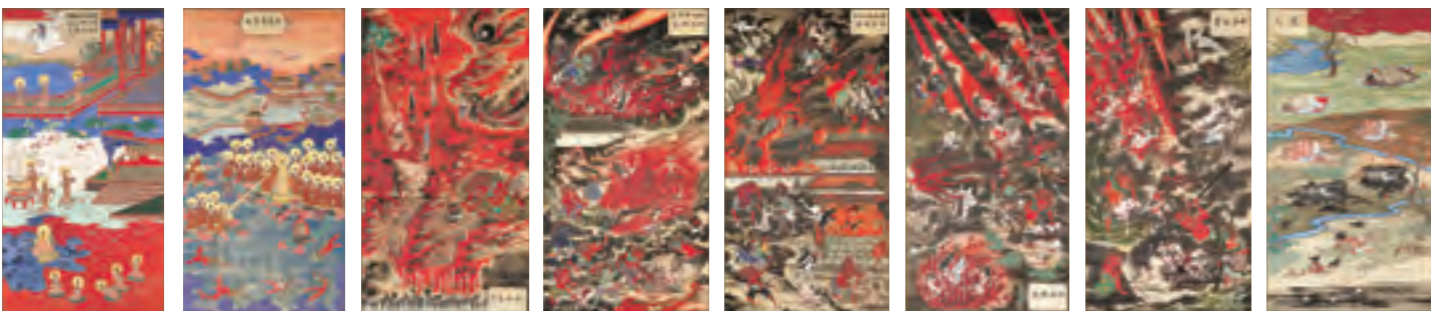
伊藤若冲 石峰寺図 京都国立博物館蔵（前期展示）

この世に現れた 浄土と地獄



土佐行広 二十五菩薩来迎図（17幅のうち）重要美術品 京都市・二尊院蔵（前期・後期展示）

死んだらどこへ行くのか？ 昔の人々にとっても、この問題は切実でした。誰もが行きたい「極楽浄土」、そして絶対に行きたくない「地獄」。二つの世界の様子は、經典に書かれています。しかし、文字だけではなく、目で確かめたい！ という人々の気持ちから、ファンタスティックな浄土や、思わず目を背けたくなるような地獄の絵画を生み出しました。



地獄極楽図（18幅のうち）金沢市・照円寺蔵（後期展示）

